

函館市医療・介護連携推進協議会 令和6年度第1回会議 会議録

■ 日 時

令和6年11月29日（金） 19:00～20:00

■ 場 所

函館市役所 8階大会議室

■ 議 事

○報告事項

- (1) 令和5年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告について
- (2) 令和6年度上半期における函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について

○協議事項

- (1) 「はこだて医療・介護連携サマリー」の全国展開に向けた基本ツールの改正について

■ 配布資料

資料1：令和5年度函館市医療・介護連携支援センター業務報告

資料2：はこだて医療・介護連携サマリー 活用状況調査集計結果およびQ&A

資料3-1：令和6年度 多職種連携研修計画実績および予定表

資料3-2：ホームページ上で掲載した研修情報一覧

資料4-1：はこだて療養支援のしおり 令和6年更新内容

資料4-2：はこだて入退院支援連携ガイド 改善箇所 令和6年4月変更

資料4-3：オーバーナイト対象患者に係るヒアリング調査結果（医療サイド）

資料4-4：高齢者の救急受診にかかわる調査

（介護側へのヒアリングに先立つアンケート）

資料5-1：令和6年度上半期におけるその他の活動報告

資料5-2：函館市医療・介護連携支援センター 相談件数統計

資料6-1：「はこだて医療・介護連携サマリー」の全国展開に向けた基本ツールの改正について

資料6-2：はこだて医療・介護連携サマリー（現行・改正案）

■ 出席顧問・委員（13名）

岩井顧問，小西委員，高見委員，大谷委員，北村委員，川口委員，亀谷委員，阿部委員，渡部委員，四戸委員，吉荒委員，齋藤委員，佐藤委員（座長）

■ 欠席顧問・委員（4名）

大原顧問，柳原顧問，氏家顧問，保坂委員

■ オブザーバー

（公社）函館市医師会事務局，（一社）函館歯科医師会事務局，
（一社）函館薬剤師会事務局，渡島総合振興局，北斗市，七飯町，
ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

■ 傍聴者 なし

■ 報道機関 なし

■ 事務局等

<函館市>

保健福祉部 原次長

地域包括ケア推進課 横山課長，渡辺主査，根崎主事

市立函館保健所 山田所長，小林次長

<函館市医療・介護連携支援センター>

鈴木センター長，佐藤係長，近藤氏，花輪氏

<函館市医師会病院>

野田事務部長，加藤医療・介護連携課長

■ 会議要旨

1 開 会

2 顧問・委員紹介

3 議 事

報告事項（１）「令和５年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告について」

佐藤座長

令和５年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告について，事務局から説明願いたい。

横山課長（地域包括ケア推進課）

※ 資料１に基づいて説明

佐藤座長

事務局の説明に関して，質問・意見等はないか。（なし）

それでは，報告事項（１）の議事は，以上とする。

報告事項（２）「令和６年度上半期における函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について」

佐藤座長

続いて，令和６年度上半期における函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について，センターから説明願いたい。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

※ 資料２～５－２に基づいて説明

佐藤座長

センターの説明に関して、質問・意見等はないか。

例年、センターでは各種活用状況調査を実施しているが、近年のサマリーの活用状況に関して、何かお考えがあれば伺いたい。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

サマリーの活用状況については、調査結果によると、ここ最近は継続して50%を超える活用状況となっている。この後の協議事項で亀谷委員からも説明があるが、サマリーの改正も控えており、その過程で大きく周知を図りたいと考えている。それにより、さらにサマリーを活用する機関が増えていくのではないかと期待している。

佐藤座長

適宜調査していただき、活用が安定的になっている状況と受け止めている。

また、その他の活動については、研修もかなり充実が図られてきており、今後もこのように進めていただければと思う。

齋藤委員

資料5-2の函館市医療・介護連携支援センターの相談件数の中で、老人福祉施設からの相談は7月に2件と、全体的に少ないと思ったが、老人福祉施設からはどのような相談が寄せられているのか。

また、老人福祉施設に限らず、介護側からはどのような相談が寄せられているのか。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

介護側、特にケアマネジャーからの相談では、「在宅医療を担える診療所を探している」など、在宅医療に関する問い合わせが多い。

介護保険施設からは、今年度から始まった協力医療機関との連携の強化について、「連携を図れる医療機関はないだろうか」、「精神科の先生方と連携を図りたいが、診療できる医療機関はないか」という相談があった。

佐藤座長

他に、質問・意見等はないか。（なし）

それでは、報告事項（2）の議事は、以上とする。

協議事項（1）「はこだて医療・介護連携サマリー」の全国展開に向けた基本ツールの改正について

佐藤座長

続いて、「はこだて医療・介護連携サマリー」の全国展開に向けた基本ツールの改正について、事務局から説明願いたい。

横山課長（地域包括ケア推進課）

※ 資料6-1に基づいて説明

資料6-2については、情報共有ツール作業部会 部会長の亀谷委員から説明いただきたい。

亀谷委員

※ 資料6-2に基づいて説明

佐藤座長

事務局および亀谷委員の説明に関して、質問・意見等はないか。

川口委員

とてもいいと思う。1つ質問だが、口腔・栄養の項目に関しては、何かを参考にして作ったのか。

亀谷委員

基本的にはバーセルインデックスの基準に即しているが、センターから補足説明をお願いしたい。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

先ほどの亀谷委員の説明にもあったが、介護側のLIFE加算の中に、「科学的介護推進に関する評価」という評価様式があり、そこに掲載されている口腔・栄養の項目と合致した形となっている。

佐藤座長

産業医科大学の松田教授も継続的に関わっていただきながら作業を進められていると思うが、全国展開に向けた進捗等、共有しておいた方がいいことなどがあれば、亀谷委員から御説明いただきたい。

亀谷委員

全国展開のためにサマリーを改正するのではなく、皆さんが使いやすくなるようにしたいと思って取り組んでいる。松田先生が「いいツールだ」と言ってくださっているこのサマリーで、地域の中でやり取りできているということを誇りに思いながら今後も使っていきたいし、皆さんにもぜひ一度使っていただいた上で、いろいろな意見をセンターに寄せていただき、ブラッシュアップできればと思っている。

本日承認いただければ、センターのホームページに来月早々にアップし、周知活動を始めていきたいと考えている。

佐藤座長

ツールの普及については、従来の様式も使えるようにしながら、新しい様式も積極的にお使いいただき、その上でいろいろな御意見をいただきたいということだった。

参加団体の皆様にも、周知等よろしくお願いしたい。

川口委員

身長・体重で計算すれば簡単だが、BMIも入力できればいいと思った。今後改正があればお願いしたい。

亀谷委員

今後検討していきたいと思う。

佐藤座長

早速の御意見に感謝申し上げます。このように、気軽に御意見をお寄せいただき、様々検討し、より良いものができればと思う。

今のお話については、すぐに改正案に盛り込むというわけではなく、将来的なものとして考えさせていただくということによろしいか。

川口委員

はい。

佐藤座長

他に、質問・意見等はないか。(なし)

それでは、サマリーの改正については、原案のとおり承認したいと思う。協議事項(1)の議事は、以上とする。

4 その他

佐藤座長

以上で全ての議事が終了したが、せっかく皆様にお集まりいただいたので、今回の議事の内容や、それ以外の医療・介護連携に関する事などについて、順に感想や御意見等をいただきたい。

岩井顧問

非常に素晴らしいサマリーを拝見させていただいた。介護認定審査等で見慣れた内容ではあるが、とてもよくまとまっていると思う。ここからどう動くかというのが課題となってくると思うが、その辺が見えてくるとさらに素晴らしいなと感じた。

我々歯科医師にとっても、このように連携が図られ、全身管理をする医師や看護師等が身近にいると思うと安心して動けるし、こういうツールを使って情報発信していただけると非常に助かる。

高見委員

実際に現場で動く立場からすると、今までのサマリーに比べ、新しい方が統一されており、口腔に関してもまとまっていて、わかりやすくなっていると思う。早速活用できるかなと思う。ぜひ活用させていただきたい。

大谷委員

初めて協議会に参加し、状況をわかっていない部分もあるが、サマリーの基本ツールはよく目にしている。

特に、介護サービスを開始する段階で、最初のうちはとてもよく見る必要がある項目なので、見やすくなっていて非常に良いと感じた。

ただ、薬に関する項目があまり入っていないのが寂しいところであり、我々薬剤師の力不足も痛感しているが、今後さらに頑張っていきたいと思っている。

阿部委員

私は医療ソーシャルワーカー協会に所属しているが、会員はそれぞれの医療機関に勤めており、医療機関もそれぞれ考え方が異なるため、このサマリーを協会として推奨

することは実際にはなかなか難しく、浸透しきれていない部分もあると感じている。

ただ、「函館には統一したサマリーがある」という話を聞いた札幌の病院から問い合わせがあったというソーシャルワーカーもおり、札幌でも様々なところで様々な様式があるようで、なかなか統一できていないというのが現状だそうだ。

協会としても普及について、何か手助けになればと考えている。

渡部委員

ケアマネジャーは8領域23項目の情報を収集するということが決まっているが、このサマリーだとそれに当てはまらない。このため、私はおそらく活用することはないと思っていた。

四戸委員

包括支援センターでは救急搬送も少なく、なかなかサマリーを活用する機会は少ないが、全体のサマリーの活用率は55%と半数以上になっており、私の肌感覚だと、もっと活用されているのではないかと考えている。

例えば、病院からの退院時や、居宅からサマリーで情報提供いただくこともかなり増えており、いろいろなところで活用されているのではないかと考えている。

高齢者の急変時の救急受診に関わるアンケート調査について、包括支援センターは10センター中6センターしか回答していないため、全センターに回答を出してもらえよう周知していきたい。

齋藤委員

私は函館市医療・介護連携推進協議会の立ち上げ時からの初期メンバーなのだが、最初は、医療関係者とのつながりが全くない状態で、医療関係者はとても敷居が高く、怖い存在だと思っていた。今はこのような冗談も言っているが、協議会をやっていく中で、多職種の方といろいろ話ができるようになったことは、とても良かったと思っている。

ただ、先ほどセンターから報告があったように、まだ介護施設側からの相談件数が少なかったり、自分のような施設長の立場や介護側の相談員のような立場では、あまり医療側との接点がなかったりするの、そういう人たちを医療側とつなげるようなこと、例えば、大規模研修の後の懇親会に連れて行くなどしていきたいなと個人的には感じていた。

もともと部会がない時代は、この協議会だけが運営され、とても活発に意見が出ていたが、部会ができてからは、部会で話し合われて解決した事項が議題として上がってくるようになったので、協議会は割と静かになっている。これはこれでいいのかなと思っている。

吉荒委員

情報共有ツール作業部会では、亀谷委員や佐藤係長をはじめとするコアメンバーの方々が一生懸命頑張っている中で、自分は自由に発言させていただいていた。

私が所属する訪問リハビリテーション連絡協議会では、母体が病院の施設もあれば、介護施設もあり、私は老健で勤務しているが、サマリー自体の活用としては、送り手側、受け手側の両方があるため、会の中でも気軽に話をしていきたい。

今回御承認いただいたサマリーの中身そのものに関しては、口腔・栄養の部分について、今年度の改訂の中でも、リハビリテーションとの一体的な取り組みというのが推進されてきており、リハビリテーションの計画書自体も、まさにこの内容で評価

をしてということで、厚生労働省で推奨されている。そういった点でも、サマリーをリハビリの専門職が見たときに、一層取り組みについての理解が進み、活用機会も増えていくのではないかと思っている。

川口委員

函館市では、部会が3つくらい立ち上がって取り組みを進められているが、バランスよく様々な話し合いがされていて、いい形だなと思っている。松田先生が函館における取り組みを広めてくださり、このサマリーは全国的にも注目されていて、最近では特に使っているところが増えたように感じている。

まだサマリーを使っていないという病院でうまくいっていない点が、今まで使っていた様式であれば、一度入力すると自動的に次のデータに反映されるが、このサマリーに切り替えるとなると、また入力しなければいけないという部分で二の足を踏んでいると聞いた。その辺をシステムエンジニアリング的なところでうまく対応できれば、さらに活用が促進されるのかなと思っている。

また、だんだん老眼になってくると、これ以上文字が小さくなると厳しいという点もあると思うが、介護側の施設もかなり使っているということで、見やすいなと思っている。

北村委員

実際にサマリーを使っている私達看護師としては、項目がバーセルインデックスになると、少し簡易になるところがあるので、とても作りやすいかと思う。

1点質問で、サマリイの活用率を毎年集計していると思うが、これは上がってきているのか、止まっているのか、お聞きしたい。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

大きな病院がこのサマリーを採用していることで、本当にたくさんの患者さんの情報がサマリーを使って地域に出回っていくようになってきているため、少しずつ活用も増えてきているように感じている。

医療・介護関係者の方々も、だんだんこのサマリーに親しみを感じ、こちらの様式に置き換えているという声も聞こえている。

先ほど渡部委員から話があったが、このサマリーはフェイスシート版サマリーというものも作っているため、ケアマネジャーさんや介護施設の皆さんなど、「フェイスシートとして使っている」という機関も増えてきている。

当初は入退院連携時の情報共有のために作られたサマリーではあったが、今の活用状況としては、日常の療養支援の中でも使われているということが、アンケートの結果等から感じ取れるようになっている。

小西委員

初めて参加させていただいたが、この協議会はどういう立ち位置の会なのか、どういことを議論していく会なのか、まずは参加して考えてみようと思っていた。

様々な物事を把握していく上で、よく木と森という例え方があるが、実際に参加させていただいた私の第一印象としては、木を1本1本育てていく会なのかなと感じた。

私は個人的に松田先生と長いお付き合いをさせていただいているが、函館では非常に先駆的に取り組んでこられていて、日本全体としてこういうものを育てていく必要があると感じている。

皆さんご存じの道南Medika, ID-Linkというシステムは、今の日本を

席卷するような連携ツールになっており、主に、病病・病診連携だったところが、徐々に医療と介護の分野に応用範囲が広がってきている。

先ほど川口委員がおっしゃられたように、やはり紙ベースであることには必ず限界があるため、函館で20年近く根付いてきたID-Linkをぜひ医療・介護連携の中にうまく組み入れていくのがいいのかと思った。そういう意味で私の視点としては、森を見ていきたいと思っている。

ご存じの方もいらっしゃると思うが、産業医科大学のある北九州市と函館市は同等規模の行政、市町村の中で、最も人口減少率が高い地区である。

また、高齢化率も高くなっているが、北九州市は隣に福岡市があるため、函館と同じ人口減少とはいっても、事情は違う。函館は近くに札幌があるが、距離的に北九州市の状況とは違い、この函館市の医療連携の取り組み、医療・介護連携の取り組みというものが、厚労省からも非常に注目されている。

マイナンバーカードを使った医療の情報共有の議論の中で、全国から10施設選ぶことになっており、そこには当然のように函館は入っている。最終的に函館のどこが選ばれたかという結果はまだ聞いていないが、必ず函館は入らなければいけないまちであり、医療と介護の連携の取り組みを担わなければならないまちだと思っている。

この協議会の、木という立場の取り組みは、今後ますます発展させていただいて大きな森となるように、函館市は松田先生がおっしゃっているように様々なツールを、ID-Linkを含め、日本全体に広めていく先駆的な都市としての責任があるといっても過言ではないと思う。

協議会の立ち位置については最初に申し上げたとおりだが、札幌との対比や全国レベルでの対比というのは、森として育てるうえでは重要な視点かなと思っている。

佐藤座長

介護側からのこの取り組みについての見方や、医療の具体的な分野からの御意見など、色々いただきましたと思う。

行政としても、人口ビジョンの改訂を行っており、これまで想定していたペースより、人口減少がかなり厳しいという状況、高齢化率もかなり高いという状況で、今後どうやって暮らしやすいまちにしていくのか、本当に大問題になってきている。

そういう中で、医療・介護連携は進めていかなければいけない取り組みなので、関係者の皆様が協力し、ここまで育てていただいたという思いもあるし、今後も関係者の皆様の間で連携を図っていただき、我々も当然支援させていただきながら、より良い仕組みづくりに取り組んでいけたらと考えている。

このほか、質問・意見等はないか。

鈴木センター長（医療・介護連携支援センター）

私は昨年、医師会病院長として来たばかりなので、サマリーのことは何もわかっていなかったが、先日、山形で開催された医師会共同利用施設連絡協議会において、センターの佐藤係長からサマリーについて発表してもらい、私もいろいろと勉強した。

実際に患者さんを診察する時に、サマリーがあると非常に指示を出しやすく、こんなに便利なものがあったのかと思うくらい良いもので、自分でもサマリーを使ってみて、医療の連携の中でとても助かっているという実感がある。

今回のサマリーの改正についてだが、現行のサマリーと改正案のサマリーの内容が結構異なっていて、現行のサマリーでは、食形態についてとても丁寧に書かれているが、改正案ではその部分がなくなっている。

また、口腔ケアがあったところには、歯の汚れだけになっていて、医者立場から

見ると残念な変更だと感じる。

特別な医療等という項目では、応用ツール④の中に食事摂取困難というものがあり、この中にいろいろ入ってくると思うが、摂食嚥下困難，嚥下に関する部分が、今、国でも謳われているため、そこも入れるべきではないかと思う。そうすると、水分のとりみや食事形態，口腔ケアなどが全部入ってくると思う。

今後の取り組みについても応援している。ぜひ改善していただければと思う。

佐藤座長

今後の作業の中で、さらに様々御検討いただくことになると思う。貴重な御意見に感謝申し上げます。

このほか、質問・意見等はないか。（なし）

5 閉 会